



坂東地域 アグリ通信

令和2年1月20日
坂東地域農業改良普及センター 発行
Tel: 0297-34-2134 Fax: 0297-34-3291

坂東地域アグリセミナー第8回「市場流通・経営管理講座」を開催しました

12月13日、坂東普及センター主催で「坂東地域アグリセミナー第8回『市場流通・経営管理講座』」を開催し、新規就農者・若手農業者12名が受講しました。

まず、茨城県農産物販売推進東京本部から「首都圏における茨城県農産物の流通について」、普及センターから「経営管理について」のテーマで、青果物の流通の仕組みや市場取引、および農業経営の改善方策について講義しました。

講義後は「私が考える、我が家の経営改善」のテーマで班に分かれてグループワークを行い、これから挑戦したい経営改善の方法や、記帳してみたい農作業日誌について意見を交わしました。

普及センターでは、今後もアグリセミナー等を通して新規就農者を支援していくとともに、農業経営改善の手法や市場流通の最新情報について発信していきます。



第2回坂東地域農村女性講座

「美味しいお茶の飲み方・お茶を使ったお菓子づくり」を開催

普及センターでは、女性農業者の資質向上を図るため、20～40代までの女性農業者の方を対象に、「坂東地域農村女性講座」を年3回開催しています。第2回目は12月10日に、「美味しいお茶の飲み方と抹茶を使ったお菓子」をテーマに、女性農業士の鈴木雅子氏を講師として迎え、抹茶のタピオカドリンク、スノーボール、栗きんとんを作りました。

今回は16名が参加し、抹茶の特長の活かし方等を学ぶとともに、みんなで楽しく作り上げたこだわりの加工品を味わいました。

調理実習後は、「お茶の飲み方」講座が行われ、実際に急須へお茶を淹れながら、お茶淹れに適した温度や成分について学びました。

普及センターでは、今後も生産者・関係機関と一体になって、女性農業者を支援していきます。



農村女性講座



農業には若さがある

今回は坂東市の中田 悠太(なかだ ゆうた)さんをご紹介します。中田さんは「中田農園」就農2年目で、水稻、ソバを直売をしているほか、麦などを農協出荷しています。

■ どうして就農しようと思ったのですか？

— 幼い頃から農作業を見てきたため、いずれは就農するつもりでいましたが、当初は大学に進学し、農業とは別分野の勉強をしていました。そんな中、父から「いずれ農業をやるつもりなら、早くから学んだ方が良い。」とアドバイスを受け、若いうちに就農することを決意しました。その後、農業大学校園芸部に転学し、施設園芸を中心に学びました。



■ 今頑張っていることや心がけていることはありますか？

— 弊社では現在、6次産業化や自社ブランドの確立に力を入れており、私が中心となってその舵取りをしています。専門家や普及員と一緒に、魅力的な商品づくりやPRができるよう頑張っています。もちろん、商品そのものの品質も大事で、良質な作物が作れるよう、土にこだわった栽培を行っています。

■ 農業の魅力、大変なところはなんですか？

— 魅力は、頑張った分が結果に繋がることです。弊社は直売を行っていますが、直接お客様から喜びの声が聞くことができます。その点において、農業は魅力的だと思います。大変なところは、天候によって栽培計画や予定が変わってしまうことです。

■ これからの目標はなんですか？

— まずは、今作っているものの品質を落とさないことです。将来、現社長が引退し私が会社を受け継いだ後も、今の品質は必ず維持する。その基本を押さえたうえで、ICTの導入による省力化や栽培面積の拡大に挑戦していきたいです。

■ 若い農家へのメッセージ

— 農業は、自分の裁量でできる数少ない職業の1つだと思います。これからもやりたいことに、積極的に挑戦していきます。

2月 土壌診断実施日のお知らせ

▶ 2月 5日(水)

▶ 2月19日(水) を予定しております。

- ・ 個人の農家の方が対象です。
- ・ 受け付けは先着順となりますので、お早めにお持ちください。電話等での予約は行っておりません。
- ・ 1回の診断で50点までの分析となります。超えた場合には次の診断日となります。
- ・ 1人あたり5点以内の持ち込みをお願いします。

編集後記

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。昨年ではあらゆる現場を見聞きして学ぶ「吸収の年」でした。今年は皆様に少しでもお役にたてるよう、昨年学んだことを活かしてアウトプットを意識していきます。(札)